

寮の人たちと私

グループ A-5 焦蘇揚 ショウソヨウ

1. 寮の人たちの紹介

私にとって大切なコミュニティは同じ寮に住んでいる人たちです。中国の大学ではみなほとんど寮に住んでいます。私は上海生まれ上海育ちです。大学も上海の大学に入りました。それでも、寮に住んでいました。

大学は上海の郊外にあります。地下鉄で2時間もかかるところにあります。ですから、毎日家に帰ったり、学校に行ったりのは大変なことになります。週に一回家に帰ることは上海人として普通なことです。地方の学生はもっと大変です。私は6002号に住んでいます。他には3人がいます。一つの部屋に最多4人が住みます。私の部屋には全員上海人です。向こうの部屋にも全員上海人です。みな同じクラスなので、すぐ仲良くなりました。Eさん・Gさん・Lさん・Yさんは向こうの部屋に住んでいて、Kさん・Sさん・Cさんと私は6002号に住んでいます。Kさんは私たちと交流が少ないので、隣の部屋のクラスメートとはよく遊んだりしている。私とLさんが自分部屋の室長であるが、室長としてのやることはありません。紙の上で名前がのっているだけです。SさんとGさんが特に仲がいいように、CさんとYさん、私とEさんもそれぞれ特に仲がよいです。Eさんは背が小さいです。Gさんは数学が得意で、私とYさんのテストが合格できるのは全部彼女のおかげでした。Lさんは私と同じ英語の授業を取っていました。英語の問題なら何でもYさんに聞けばよい。彼女は二年生の時、この大学をやめて、カナダにいきました。Sさんは器用な人で、学校の部活をいろいろ参加しています。Cさんは私と一番共通の会話ができる人です。

最初、出会ったときから、同じ上海人のため、自分の高校の話をしたり、好きな本や音楽を紹介したりしました。そのあと、トランプや五目並べをやったりしました。私は病気になる時も彼女たちに看病をしてくれたことがありました。同じクラスなので、毎日ほぼ同じ授業を受けていました。勉強のこともお互い助け合いました。楽しい学習生活を過ごしていました。

2. インタビュー相手

私がインタビューしたい人はGさんです。向こう部屋に住んでいるのGさんは、私の部屋のSさんと仲が一番いいです。GさんとSさんは実家が近いから、お互いに週末や長い休暇の時よく遊んだりしたと聞きました。最初に私とGさんはと一緒に遊んだりしていても、必ずほかの誰かがいるはずですが。その頃は二人きりになったことがないが、いまはすっかり仲良しになりました。

Gさんは逞しい人と皆が言いました。確かに頼りになれる人です。私たちは日本語専攻で、毎日日本語を勉強しました。Gさんは物覚えるのが得意ではないので、最初に日本語の単語や文法を覚えるためにはかなり苦勞をかけました。いまはもう慣れていたと思います。頑張り屋さんの彼女は理科系の授業が得意です。数学の授業は彼女とYさんと一緒にでした。毎週数学の宿題は彼女の指導の元でできたものです。期末テストの前に、彼女は色々な問題を答えてくれて、私に励ました。おかげさまで、Yさんと私は無事合格しました。彼女も喜んでくれました。そのあと、Yさんから聞いた話は、Gさんが私の問題を解

いてくれた後、Yさんに補習先生のようなことをしてあげました。一からYさんに数学を教えてあげたそうです。私よりYさんのほうがずっと彼女に感謝の気持ちを持っています。

そのあと、Yさんがカナタに行きました。数学の授業は私とGさん二人きりになりました。特に覚えているのは、彼女は内村航平選手が好きという事に関するエピソードです。その時、体操の大会をやっていたので、彼女はずっと内村さんの試合を見たいと言いました。しかし、学校にいる時は、テレビがないから見られないということで彼女が落ち込んでいました。実は、Gさんがひどく体操の大会を見たいと思わなかったので、残念な話だと思って気にしていませんでした。だが、毎日毎日、Gさんは携帯で試合の情報を知りつつ、明日の試合が見たい、あさつての試合も見たいと言いつづけていました。そのうち、彼女は本気で見たいと私がようやくわかりました。ネットで調べ、見る方法はないかと思つて、やっと生放送を見られる方法が見つかりました。パソコンの持たない彼女に教えたら、大喜びでした。

Gさんと私は一番遅く仲良くなりました。実際は、かなり気があっているのに、彼女にその事について聞きたいです。

3. インタビューの結果

私たちが遅くて仲良くなるということに、Gさんはタイミングがないと答えました。私もそう思います。インタビューを始まる時から、Gさんはずっと「早く、帰ってきて」と言っていました。「わかった」と返事しました。一年間の留学は決まった時から、寮の友達は「あなたが帰ったら」とかよく言いました。これも、みなが私のことを思ってくれと感じます。今回のインタビューは特にそうでした。「私たちのコミュニティはどうのようになってほしい」と聞いたら、「まず、帰ってきたら、おごつてあげるよ」と言いました。嬉しそうな顔をしました。私も期待しています。私にとって、このコミュニティは安心していられる場所だと思います。Gさんもそう思います。みなそれぞれ頼りになれ、共に大学生活を過ごしています。自分がこのコミュニティでの役はいじめられる役だと思つてたずねてみた。Gさんは「確かに、そうかもしれない」と笑つていて、「実は、みなに可愛がられていた」と言いました。そして、Gさん自身はこのコミュニティでどのような役をしていますかと聞いたら、「私は数学が得意よ」とふざけました。私たち同時に笑い出しました。このコミュニティでは、お互いに勉強や生活のことを手伝っています。不得意なことがあつても、それが得意な人もいます。そう考えたら、私はいじめられるのが得意なことになってしまうから、少し微妙な気持ちになりました。

4. 寮の人たちと私

Gさんの言った通り、私はみなに可愛がられていたかもしれません。これは、ありがたいことです。そして、早く帰ってきてほしいということは親も友達も言われますが、Gさんに言われると大変嬉しいです。みなと再会することが楽しみにしています。

いま、寮の人たちのことを思い出すたびに、懐かしいような感じがします。本来、寮の分配は指導員で決めることなので、自分の意志が入れません。この分配でその人たちに出会い、楽しく過ごせることは私にとって最高です。多分、寮のことをもう一つの家と思つていのではないでしょう。寮に帰ることは家に帰ることと同じなのでしょう。寮の人たちは私にとって、不可欠な同居人です。

今後、このコミュニティーで残りの大学生時期を過ごしますので、自分が帰ったら、まず、寮の人たちへの感謝の気持ちを伝えようと思います。この不在の一年間で、ずっと私のことを思ってくれる人たちに、素直に「ありがとう」を伝えたい。私たちの中で、今までやってきた絆を強く、深くします。みなに可愛がられていて自分はまだまだ甘いと思います。留学の一年間で、自分もかなり成長したと思います。他人に頼らずに、ひとりで何をやめることはできて、帰ったら寮の人たちにも自分の成長を見せたいと思っています。日本での一年間のことをみなにシェアしたり、彼女たちのことも聞いたりします。自分の成長を生かして、今後の寮の生活に前より更にいい雰囲気の中で過ごそうと思います。

5. クラスについての感想

グループに分けて自分のコミュニティーを紹介したりしましたが、最初から、紹介文を書きまして、クラス全体にも a、b の二つのグループにわけられていました。紹介文を皆で読んで質問したりしていました。その後、自分のグループのメンバーだけ詳しく説明するのは、いいと思っていますが、他人の紹介文を読んで、その人のコミュニティーが気になったら、仕方なく紹介文を読んで終わりではないですか。グループごとに、面白いや珍しいコミュニティーを一つか二つを全班で紹介することできたら、いいと思います。